



親子でなにわ新発見!

おとなと子どもがともに楽しめる講座やイベント、施設を体験レポートします。
今回ご紹介するのは「大阪市立天王寺動物園」です。

動物園の楽しみ方、上級編!?...の巻

お出かけの定番といえば動物園。今回はとてもお得で、楽しくて、おまけに学習意欲もわいてくる! そんな情報をお届けします。高校生の娘とでかけた久々の動物園でした。

「動物園って、最近行ってない」「小さな子どもの中で恥ずかしいかな」などと言いながらでかけたのは、大阪市立天王寺動物園。動物園のある天王寺公園へは、アクセスもよく、気軽に行ける場所です。



楽しみ方はいろいろですが、今回は、毎月第3土曜日午後に行われている『飼育係のおしゃべりガイド』に参加してきました。まずは集合場所のレクチャールームへ。開始時刻前からかなりの人数が集まっています。担当の飼育係さんが登場して、簡単な注意事項を聞いた後、ともに出発。今回はアジアの熱帯雨林とアフリカサバンナに棲む動物を見学するコースです。コースは担当する飼育係



さんによって変わることがあります。まずはゾウ舎へ。ここには1948年にインドからやってきたゾウの春子がいます。かなりの長寿です。カバ舎ではおやつの時間に重なって大迫力の口を間近でみることに成功! カバ舎前のカバのブロンズ像は、視覚障がいの方にも大きさ、形がわかるようにと

実物大です。ライオン舎では写真撮影のベストポイントも教えてもらいました。約1時間のコースですが、ふつうなら気づかないようなポイントなどをていねいにガイドしてもらい、あっという間でした。参加は自由なので、移動途中でメンバーは増えたり、減ったりを繰り返します。子どもばかりになったり、お年寄りの団体と合流したり。メンバーによっておしゃべりの内容も変わってくるので、高校生の娘も満足したようです。



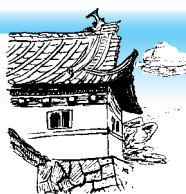
天王寺動物園では、動物たちをなるべく自然界に近い状態で飼育、展示しています。見上げれば高速道路が走る街中の動物園ですが、努力と工夫

でこれを可能にしていることを今回『おしゃべりガイド』に参加して初めて知りました。また、野生動物の保護や、環境保護のための努力がどれだけ大切かということも教えてもらいました。図書館で本を借りてもう少し調べてみたい、と話しながら家路に着いた一日でした。

(文・写真: 梅木智子)

大阪市立天王寺動物園 <http://www.city.osaka.jp/yutoritomidori/zoo/>

- 通称 〒543-0063 天王寺区茶臼山町1-108 電話 6771-8401 FAX 6772-4633
- 開園 9:30 ~ 17:00(公園入園は ~ 16:30、動物園入園は ~ 16:00)
- 休園 月曜(祝日の場合はその翌日)、年末年始
- 費用 (公園) 高校生以上 150円 (動物園) 高校生以上 500円 (障がい者、市内在住の65歳以上の方は無料 要証明)
- 交通 (公園入り口)(天王寺ゲート) 地下鉄・JR「天王寺」 (動物園入り口)(新世界ゲート) 地下鉄「動物園前」・「恵美須町」



おおさか歴史探訪 ⑭

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

くまた

杭全神社の連歌所 ー全国で唯一の連歌のための建物ー

中世自治都市として有名な平野郷の東北の一角に、杭全神社があります。北および東側には環濠の跡があり、かつての景観を残しています。創建は平安時代前期と伝えられ、境内には重要文化財の本殿などたくさんの文化財があります。そのひとつが連歌所です。

連歌とは和歌の上の句と下の句を別の人が相互に詠み連ねるもので、中世以降は全国に流行していました。杭全神社の連歌は鎌倉時代に始まり、室町時代にとても盛んになりました。これをおこなうのが連歌所で、現在の建物は江戸時代の宝永5年(1708)に再建されたものです。本瓦葺きの建物で、内部は12畳の主室と南側の控の間に分かれています。控の間の西側が玄関です。主室の正面には中央に床の間があり、周囲の壁には三十六歌仙の額がかかっています。

連歌は明治以降あまりおこなわれなくなり、連歌所として独立した建物が残っているのは全国でも杭全神社だけです。簡素な中に気品があり、近世の連歌所として貴重であるため、大阪市の文化財に指定されています。

(文:教育委員会文化財保護担当)

